



題字：松本 敏夫 写真：朝井 紀久子「水晶岳・鷲羽岳」

目次

巻頭言「雑感」	大山 光一	1	日和田山～物見山～平沢富士山	中根 洋子	14
コラム「日本山岳会のトリセツ」	高橋 努	2	安全登山委員会		
トピックス 埼玉支部設立15周年記念講演会	若林 優子	3	講演会「埼玉県警察山岳救助隊の話」	田中 利昌	15
山行委員会			ボランティア委員会		
宝篋山	坂倉 理恵	5	清掃登山 筑波山	若林 優子	17
棒ノ折山・岩茸石山	町田 美春	6	新年山行 湘南平・高麗山	若林 優子	18
城峯山	町田 美春	7	スキー同好会		
忘年山行 龍崖山	町田 美春	9	令和7年度(2025)第7回日帰りスキー会『報告』	古川 史典	19
縞枯山・北横岳	朝井 紀久子	10	彩の山研究会だより	宮崎 稔・小原 茂延	20
新入会員ウエルカム山行 長瀬アルプス	町田 美春	11	ペンリレー	小玉 和孝	22
平日山行倶楽部			会務報告・新入会員自己紹介		
鉢伏山	橋本 久子	13	インフォメーション		
箱根駒ヶ岳～神山	坂倉 理恵	14	編集後記		

巻頭言 「雑感」

支部長 大山 光一

警察庁がまとめた年末年始の山岳遭難(令和7年12月29日～令和8年1月3日)における全国の山岳遭難件数は、53件(前年対比+1件)、遭難者は69人(前年対比+2人)、うち死者・行方不明者は6人(前年対比-1人)。過去5年間の年末年始における山岳遭難発生は、発生件数及び遭難者数も増加傾向です。

登山の原則は、自力下山であり、想定外の事態が発生すれば自力で対処しなければなりません。本来、「登りたい山に行くのではなく、登れる山に行く」これが、安全登山の基本です。毎日のように報道される山岳遭難ニュースに胸を痛めています。低い山が安全で高い山が危険ということはありません。自然が対象の登山行為は、常に危険な行動が同居しています。

経験の浅い登山者に共通しているのは、体験が少ないから、自分で判断ができない。自分の技量(実力)が判らない。多分、大丈夫だろうという曖昧な判断基準で行動して道迷い、滑落・転落、疲労、等々。自分で解決ができない状況に陥ってしまう。遭難のパターンは容易に想像できます。現在、埼玉支部の会員は大きな遭難事故に遭遇していませんが、油断と過信は禁物です。

一方、グループ登山は、参加者の技量にバラツキがあると、リーダーの責務も重くなり負担に感じる場合があります。まさに、今期の山行計画に於いて、リーダーの個人的判断による突然の山行中止のように……。憧れだけで山は登れません。必要な訓練をしないで安易に参加者を募る。今、リーダーの資質が問われています。

そんな場面を打開するのは、参加者が協力して計画を遂行すれば成長につながります。それが難しいなら、まだチャレンジするレベルではないということです。

登山隊を組織する立場になって、「仲間の安全、家族の安心」を心掛けています。それは、ヒマラヤの8,000m級の高所登山を幾度か登った体験から言えるのは、全員登頂と五体満足で下山する。そんな登山を楽しむのは、簡単なようで、これが意外と難しいのです。

2025年の大きな出来事は、日本山岳会が設立120周年を迎えたこと。歴史と伝統を紡ぎ、先人たちの足跡を辿ることで、120年の歳月の重みと登山の源流を知ることができました。

また、2010年に誕生した埼玉支部も先輩諸氏の努力と活動を重ねて15年の歳月を歩きました。設立5周年記念事業で、チャレンジしたネパールヒマラヤの6,000m峰は登頂が叶わず敗退。設立10周年記念事業のヨーロッパアルプス計画は、世界的規模で発生したコロナの影響で中止になりました。努力が必ず報われるとは限りませんが、貴重な経験でした。

本来なら、先輩たちが繋いだ 15 周年記念事業は、実践登山の成果を含めた節目になるような形態で実施されることを期待しましたが、かつてのような先輩と後輩という人間関係から構築される信頼関係、仲間意識を育み、登山歴を積み重ねるような登山環境は、遠い夢物語になりました。従って、より高く、より困難を求める、登山者がそう多く在籍していない現況では、海外登山も現実的ではありませんでした。

そんな時代背景を考慮して、設立 15 周年記念事業講演会は、新旧会員の親睦と交流を図ることを目的に、11 月 29 日（土）ウェスタ川越で、「あなたを待っている山がある」と題して、かつて埼玉支部に在籍していた田部井淳子氏を偲んで、ご主人の登山愛好家田部井政伸氏による講演会を開催しました。

講演会のパンフレットに記載した「過去に学び 未来につなぐ！」は、120 年の歴史に綴られた日本山岳会の先人達の歩みを学び、埼玉支部に所属するひとり一人が自覚と責任を持って行動する。そんな気付きを伝えることでした。その実践を継続することで、魅力ある組織に変貌を遂げる可能性を描きました。

わたしが半世紀以上前に入会した日本山岳会は、山を登る会でした。昭和、平成、令和と、自らの可能性を求めて辿った山々の体験が源流となって、今のわたしを支えています。

そして今、本部が掲げる「みんなの日本山岳会」は、登山に特化することなく、個々人が求める山歩きや自然との関わり、社会貢献、ボランティア精神を含めた多様性を伝えています。今後、34 支部の独自性や特徴が組織の魅力につながり、個性豊かな会員が入会して、多岐にわたり活躍できる環境を期待しています。

このような時代背景を踏まえて、埼玉支部は、新たな役員体制で、設立 20 周年に向けた活動を展開します。今般、3 期 6 年の任期満了に伴い、支部長職を退任します。在籍中は、支部役員並びに会員の皆様に支えられ、組織運営の中核を担わせていただき本当にありがとうございました。感謝、感謝です！



コラム 「日本山岳会のトリセツ」

評議員・平日山行倶楽部代表 高橋 努

私は 16 歳の時（1960 年夏）に 3 歳上の兄と北アルプス全山縦走にチャレンジした。烏帽子岳から白馬岳まで 10 日間で縦走しようというものである。食料は、軽量化を徹底し、米と味噌、キャベツ 1 個、海苔の佃煮とフリカケのみ。行動食は乾パン。ところが 3 日目にはキャベツが腐りだし、7 日目で食料が尽きて、鹿島槍で敗退した。しかし、これで私は北アルプスにはまってしまった。大学では「岩と雪」のポスターに飛びついて、早稲田岳友会に入会した。ここで野口勝志君と同期になった。社会人になってからは仕事に没頭したが、60 代になって時間にゆとりができたので、今度は海外登山にはまった。20 カ国くらい行ったと思う。先輩のお誘いでヒマラヤ 6,400m 峰にも登った。この時のメンバーは全員が日本山岳会員であった。この先輩の強い勧め（脅迫？）で止む無く私も日本山岳会に入会した。既に 65 歳の遅い入会だった。私は高い入会金の元は取らねばと思って、本部の山行委員会に入った。ここで清登緑郎さんに遭遇した。各地の支部の会員とも知己が広がったが、特に北海道支部に親密な仲間ができた。このおかげで百名山も完登でき、今も毎年、ニセコでのタケノコ狩りに招かれる。また、運のよいことに入会した翌年に埼玉支部が設立された。2 年目から支部委員になり、今に至る。たくさんの山友に恵まれ、平日山行倶楽部を立ち上げてからは、勝手ながら私の気に入った山に、皆さんをお誘いしている。今でも高校や大学の岳友とも山歩きを共にするが、圧倒的に日本山岳会員との山行が主である。思えば、入会を強制してくれた今は亡き先輩には、心から

感謝している。

日本山岳会は、言うまでもなく日本の登山界にあって先駆的なクラブであり、それこそ歴史に名を馳せる著名な大先輩が数多おられる立派なクラブである。会員に名を連ねるだけで十分なくらいである。一方で、会の活動には完全に自主性を求められる。だから、名を連ねるだけでは全くの無駄金になってしまう。自分から飛び込んでつき回さないと、面白いことは何も生まれない。ここが分からないと、高い会費を払っても何もしてくれない、ということになってしまう。

自然観察に興味があれば、生物の先生のような会員がいるし、障害を持つ方と共に登山を楽しむなんていう経験はなかなかできない。「岩と雪」にチャレンジしたければプロフェッショナルもいる。今のスローガンは、「みんなの日本山岳会」である。日本山岳会トリセツの要諦は、自分のやりたいことを自らの手でつき回し、飛び込むことである。その先には無限の楽しみが待っている、と思う。

さて、登山には単独行という楽しみ方も捨てがたいが、基本は団体競技である。従って、計画する、運営する、管理する等という役割分担がある。この役割には関わらない、分担しない、では山行は成立しないのは自明の理である。それであれば、強制されてやるのではなく進んで担った方が面白い。これもパーティー登山の楽しみである、と信じている。



「日仏友好の輪」



新井家のひな祭り

切り絵：渡辺 徹也

トピックス

埼玉支部設立 15 周年記念講演会

15 周年記念実行委員会 若林 優子

過去に学び 未来につなぐ

「あなたを待っている山がある 登山愛好家 田部井 政伸氏をお迎えして」

- ・日程：2025年11月29日(土)
- ・場所：ウェスタ川越 2階活動室 1・2(埼玉県川越市新宿町 1-17-17)
講演 14:00～16:00
- ・講演者：登山愛好家 田部井政伸氏、日本山岳会 副会長 柏澄子氏
- ・演目：二部構成 第一部：「妻は妻、私は私」 第二部：「田部井淳子さんの遺したもの」
- ・協力：一般社団法人 田部井淳子基金
- ・後援：埼玉県、埼玉県教育委員会、川越市、川越市教育委員会、一般社団法人 埼玉県山岳・スポーツライミング協会、埼玉新聞社
- ・参加者数：申し込み 133名、実参加者 112名(埼玉支部 41名、JAC 会員 8名、一般 63名)
※スタッフ 11名(埼玉)、講演者 2名を含む

・講演概要

【第一部「妻は妻、私は私」】

小学五年生で登った赤城山が初めての登山であり、ボーイスカウト活動を通じて自然を五感で感じることを学んだ。

高校生のときに 結核性骨盤カリエスでの入院経験から、毎日を一生懸命に生きることを考えている。退院する時には主治医から許可を得て、全力で病院の廊下を走った。その当時の先生とは未だ親交がある。

就職後、職域山岳部に所属。当時では珍しく、大学山岳部に負けないよう厳冬期のクライミングなど難易度の高いことに挑戦していた。核心部だけクライミングをする人も多し中、登山とは頂上につかないといけないという信念を持っていた。

妻・淳子さんとの出会いは鷹取山の岩場。お互い雑誌の記録で名前は知っていたが、その時に同じ赤いシャツを着用していたことがきっかけで声をかけ、交流がはじまった。

結婚は、一人よりも二人でいるほうが経済的にも行動的にもプラスになるものであり、淳子さんは常に前向きで全てをプラスにする女性だった。

結婚後、三大北壁登頂のため、会社と掛け合い休職制度を作り、6ヶ月休職してヨーロッパ遠征を行った。シベリア鉄道でヨーロッパに入り、帰りはアフリカ～インド経由で帰国した。その遠征で1シーズンのうちにグランドジョラス北壁とマッターホルン北壁を登頂した。本当は1シーズンで三大北壁を登頂することに挑戦していた。

「1に登山、2にバイク、3に仕事」がモットーである。

【第二部「田部井淳子さんの遺したもの」】

お互いに反対せず気持ちよく送り出し、カレンダーに先に予定を書き込んだ方が優先。カレンダーに書き込むのは、お互いにどこに行っているのか確認の意味もある。

今は子供たちとカレンダーに予定の書き込みをしており、外出時は必ず顔を見て挨拶し、着ている服を確認することで、万が一に備えている。

長期遠征などはどちらかが子供と残るルールで子育てをしたが、淳子さんの遠征中は自分も好きなことをしていた。淳子さんは、がんになっても前向きに頑張り、最後まで自分のやりたいことをしていた。

映画ではお互いを「お父さん、お母さん」と言っていたが、本当は「おじさん、おばさん」と呼び合っていた。

淳子さんは「東北の高校生の富士登山」に尽力し、その情熱を表すエピソードも多々ある。富士登山の参加費は、高校生が自分で払えるであろう 3,000 円に設定した。自分のお小遣いで参加する高校生は、何か意志を持って参加しているだろうから、志を持つことの大切さを教えていた。また、最近は高校生には多くの大人たちの協力で登山ができていたことも教えている。何かを変えたくて富士登山に参加する子どもも多く、そして登頂後の皆の目は輝きに満ちている。

この活動は、登頂人数 1,000 名、登頂率 100%、無事故の登山を目指している。将来的にこの高校生達が東北、ひいては日本の力になることを願っている。

淳子さんの最期の山は富士山の 6 合目。そこで待機し、下りてきた子供を自ら迎えて讃えてあげていた。映画で演じていた、富士山で二人で座っているシーンは著書から引用している。富士山では実際に映画のように淳子さんのストックをひいて登った。

淳子さんは、自身で立ち上げた登山の会「MJ リンク」で政伸さんのような人と結婚するように周りに話しており、「大当たりの旦那さんだ」と言っていた。お互いプラスになるのが結婚。今までずっとそれでやってきていた。自分の家の物差しで一生懸命生きて、楽しんで、周りに迷惑をかけなければよい。楽しく生きて人生をいかに豊かにできるか、それが大事である。



田部井 政伸 氏



左：日本山岳会副会長 柏 澄子氏

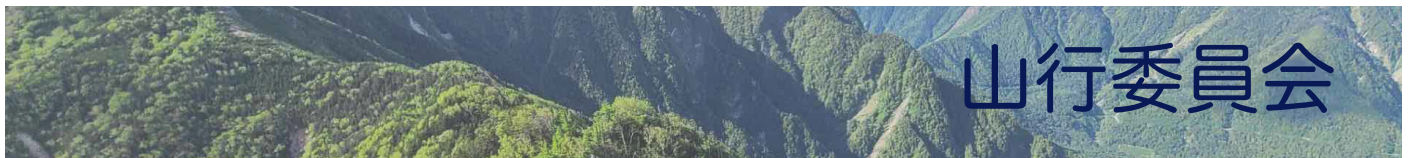
・まとめ

本講演会は埼玉支部設立 15 周年を記念し、埼玉支部ゆかりの登山家ということで田部井政伸氏に講演をお願いしました。偶然にも同じ年に田部井淳子氏のエベレスト登頂から 50 年を迎え、さらに開催日が映画公開直後という絶好の日程ということで申し込みは直ぐに満員となり、講演も笑いあり、映画の裏話あり、ほろりとするエピソードもありで大変盛況に終わることができました。

田部井政伸氏の語る真摯な山への情熱と人生観、互いを尊重し高め合ったご夫妻の絆は、全員に大きな感銘を与え、参加された多くの登山愛好家に山の魅力を再認識していただくとともに、埼玉支部員たちの絆の再確認とさらなる結束の場となりました。

今回の講演は次の 20 周年へ向けて、支部として記念行事の経験を積む記録を残す意味がありましたが、それ以上に大きな意味を持った講演会になったと確信しています。

最後に今回の講演会開催にあたりご尽力、ご協力していただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。



宝篋山

坂倉理恵

- ・日程： 2025 年 11 月 9 日（日）
- ・場所： 宝篋山（461 m 茨城県つくば市）
- ・天候： 小雨
- ・参加者： 稲越、橋本、水野（千）、朝井、中島（一）、高橋（努）、立原、芦沢、中根、宮崎（SL）、坂倉（CL）
計 11 名
- ・コースタイム： 小田休憩所 10:10 →（極楽寺コース）→バイオトイレ前 11:46 → 11:51 宝篋山山頂（昼食）12:15 →（小田城コース）→硯石 12:47 →要害展望台 13:32 → 13:50 小田休憩所（約 6km 3 時間 40 分）

山行一週間前に天気予報を確認した時は、晴れ予報であったので安心していたら、当日が近づくとまさかの雨予報に。好転を期待したものの見事に裏切られ、益々雨が確実にになっていく絶望の数日でした。2 日前にルート変更を決断。当初の常願寺コースは時間がかかるため、一番短くメジャーな極楽寺コースで登ることとし、参加者の皆さまへメールでご連絡しました。

当日。朝は激しく地面を打ちつけていた雨も、集合場所の小田休憩所に着いた頃には、少しくらい濡れても平気！という程度に弱まっていました。全員が怪我なく、数時間後にまたここに戻ってくることに、雨天歩行の練習のつもりで、秋雨を楽しみながら歩くことを念頭に、つくばの人々が大切に守っている里山にお邪魔しました。



極楽寺コースは、手作りの看板が付けられた滝や岩を見ながら沢沿いの道を歩きます。急登や緩やかな岩や土の道などを繰り返し、弱い雨に打たれながら、私達以外、誰もいない静かな山道を進みます。山頂に着くと、全く予期していなかった景色が広がっていました。なんとそこには土浦の街と霞ヶ浦を覆う一面の雲海が！集合写真を撮る時には、諦めていた筑波山も頭を覗かせてくれました。さらにランチタイムの時だけ雨が止み、山頂貸切状態でゆったりしたひと時を過ごしました。

下山は当初の予定通りの小田城コースです。行きの道とは少し様相が変わり、土と木の根を踏みしめながら標高を下げて行きます。楽しく会話も弾みながら、予定よりも早く順調に下山しました。

雨が激しく降ることはなく、ゴールが近くなると登ってくる人と本日初めてのすれ違いもあったりして、天候の心配は杞憂に終わりました。天気が悪くても、自然が好きな仲間達は、自然に逆らうことをせず、ありのままを楽しむことを知っている。そんな充実感と無事に終わった安堵感で、とても満たされた気持ちで帰路につきました。ご参加の皆様、ありがとうございました。



棒ノ折山・岩茸石山

町田 美春

- ・日程 2025 年 11 月 16 日（日）
- ・場所 棒ノ折山（969m） 岩茸石山（793m）
- ・参加者 稲越洋一 田中利昌 小玉和孝 塚越和子 宮崎則子 那須朋美 平本美恵子 朝井紀久子 CL：町田美春 計 9 名
- ・天候 晴れ
- ・行程 7：50 さわらびの湯バス停→8：15 白谷沢登山口→8：50 ゴルジュ→9：40 岩茸石→10:05 ゴンジリ峠→10:25 棒ノ折山山頂→10:55 ゴンジリ峠→11：15 黒山→13：15 岩茸石山山頂→15：20 川井駅
(行動時間：7 時間 30 分)

【山行概要】

飯能駅集合後、さわらびの湯バス停ロータリーまでタクシーで向かう。そこでもう 1 名と待ち合わせ参加者は合計 9 名、体調不良による欠席者 1 名あり。

ここで最後のトイレを済ませ、車道を歩き登山口へと向かう。有間ダム周辺は紅葉真っ盛りで青空に映えていた。



程なくして、白谷沢登山口に到着。衣服調整、水分摂取後杉林の樹林帯へと進む。寒さはさほどではなく、歩くのには絶好の気候である。30 分ほどでゴルジュに到着。水に濡れた石の上を慎重に渡り、鎖場も問題なく通過。その後林道を横切るところで小休止。女性参加者が多く、また久しぶりの参加者も居たため、会話が途切れる事なく終始にぎやかな雰囲気であった。

岩茸石を横目に見ながらゴンジリ（権次入）峠へ歩を進める。その先は階段が崩れ、非常に歩きづらく、また木の根がはびこっているため足元に注意しながら山頂へと向かう。突然綺麗な木道が現れ、棒ノ折山山頂に到着。

奥武蔵方面の山々を眺め集合写真を撮影後、小腹を満たしゴンジリ峠へと下山を開始し、分岐を黒山方面へと進む。杉林の中は空気が冷たく寒さを感じた。

黒山回りから広葉樹となり、木々の間に太陽の光が差し込み、紅葉がより一層鮮やかに映し出される。急登の登り返しを何度か繰り返して、やっと岩茸石山山頂到着。山頂では若者達がストーブを使い、山ご飯を準備しているところを横目で見つ、集合写真を撮影。彼らの美味しそうな匂いに誘われ、我々も空腹を満たすため小休止。

岩茸石山山頂からの下山は急坂のザレ場で転倒しやすい状況であり、緊張を強いられたが、全員が怪我をすることなく無事に下山できた。

日没が早くなる時期であり、暗くなる前に樹林帯を抜けられるか不安であったが、14 時過ぎには林道に出ることができ、そこから川井駅に向かい予定より早く到着することが出来た。秋晴れの中、紅葉も見頃で気持ちよく歩けた一日であった。



城峯山

町田 美春

- ・日程 2025 年 12 月 6 日（土）
- ・場所 城峯山（1037m）
- ・参加者 田中利昌、松尾 巖、塚越和子、宮崎則子、水野千秋、C L：小玉和孝、 S L：町田美春（計 7 名）
- ・天候 快晴
- ・行程 9：25 西門平バス停→9：35 登山口→10：45 鐘掛城→11：00 石間峠→11：10 城峯山山頂→12：10 城峯神社→12：30 将門隠れ岩→12：50 天狗岩→13：00 城峯神社→13：15 石間峠→14：25 西門平バス（行動時間：5 時間）

【山行概要】

秩父鉄道皆野駅に集合、自家用車 2 台に分乗し西門平バス停へと向かう。そこから民家の脇の林道を通り 10 分ほどで登山口に到着。杉林の樹林帯に入り丸太の橋を渡り、ゆっくりと山道を進む。

皆野駅に集合した時はまだ気温が上がらず「寒い、寒い」を連発していたが、歩き始めると体も温まり気温も上がってきて歩くには絶好の日和である。15 分程で衣服調整休憩。その後、目の前に大きな鉄塔が現れ横を通り過ぎると、まもなくビュースポットがある。「あの山は何?」「浅間山?」「あっちは?」などそれぞれが興味津々。山頂の展望台からの眺望を楽しみに先を急ぐ。また樹林帯の中を進み、ほどなくして鐘掛城に到着。



こんな山の上に城があったのかと驚きながら前方へ視線を向けると、大きな電波塔が見え「あそこが城峯山山頂!」と目的地を確認。だがその前にこの急坂を下りなければならない。幸い階段になっているがかなりの勾配である。ストックを持ち、それぞれが転倒に注意しながら慎重に下る。石間峠の分岐を山頂方面へ進むと最後の急登に心が折れそうになる。しかし、山道は針葉樹の落葉がクッションとなり膝に優しい。雲一つない快晴で気温も上がりとても気持ちが良い。最後は気合を入れて登り、ようやく山頂に到着。まずは記念撮影。その後、展望台へ上がり秩父の山々、遠くには筑波山、浅間山、八ヶ岳など山肌を白く染めた山々がとても美しく素晴らしい眺望である。

展望台の下で日向ぼっこをしながら昼食を摂り、来年の山行はどこへ行こうか話が盛り上がった。

山頂から 300m ほど下った所に城峯神社がある。そこへ向かう途中、落ち葉の所々に霜柱が顔をのぞかせていた。風もなく穏やかな日ではあるが、霜柱を見るとやはり冬を実感する。

トイレを済ませ神社にお参りし無事に下山できるよう祈願する。

城峯神社は 1000 年以上の歴史があり、平将門の隠れ岩伝説がある。その隠れ岩へと向かう。ほぼ垂直に近い岩に鎖が張られている。代表者 2 名が順番に鎖を掴み、隠れ岩へと登っていく。岩に落葉が積もり足が滑る。かなり難易度が高い。今でこそ鎖があるが、昔はどのようにして登ったのかと思いを馳せながら下で見守る。洞窟の中に入るのは厳しく隠れ岩の様子だけ見て退散した。

山道をまわって隠れ岩の上の方にある天狗岩へ行き、祠に手を合わせ神社へ戻る。

神社からはキャンプ場脇の林道を石間峠へと向かい、その先は巻道で下山し無事に西門平バス停に到着。

初冬の穏やかな日にのんびりと山を楽しむことができた。



忘年山行 龍崖山

町田 美春

- ・日程 2025 年 12 月 13 日（土）
- ・場所 龍崖山 246m
- ・参加者 橋本久子 根本忠一 坂倉理恵 野口勝志 足立原章 奥田通孝 林 信行 高橋 努 小玉和孝
小島千代美 塚越和子 吉田寛治 大野国光 行方真由美 大室昌久 田中利昌 水野千秋 朝井紀久子
鴨志田隼司 立原由子 金丸一豊 横山真一 若林優子 吉本千春 米山英三 水野康男 那須朋美
古川史典 磯崎佳奈 渡辺徹也（忘年会のみ） SL：町田美春 CL：宮崎則子（計 32 名）
- ・天候 晴れ
- ・行程 9:20 飯能駅→ 10:15 あさひ山公園→ 10:40 龍崖山公園登山口→ 11:21 龍崖山山頂→ 12:08 八耳堂→ 12:20
吾妻峡→ 12:35 天覧山→ 14:00 飯能中央公園→ 14:35 忘年会場
- ・忘年会会場 【達まる】飯能駅北口

【山行概要】

空気が冷たくひんやりした朝、飯能駅改札前に集合。日本山岳会以外にも多数の登山グループが待ち合わせをしており、飯能駅改札前は大賑わい。参加者が 30 名越えのため 3 グループに分け、それぞれのリーダーが点呼をとりグループをまとめ行動。しかし、出発間際になってトイレに行く人たちが続出。人数が揃ったグループから出発するがトイレへ行ったまま戻ってこない人、ストックを置き忘れ取りに戻った後、埼玉支部ではないグループについて行ってしまった人など、ハプニング続出で無事に山行できるのか不安でしかないスタートをきる。

住宅街を通り抜け割岩橋で飯能河原を渡り、ビール醸造所の脇を通り抜け、美杉台公園へと向かう。落ち葉に敷き詰められた公園内から住宅街の中にあるあさひ山展望公園へと長い石段を登って行くと 360 度の大パノラマ。空気が澄んでいるため富士山がくっきり綺麗に見え、スカイツリーをはじめ都心が一望できる。展望を楽しみながら小休憩。「早く飲もうよ」「ここで宴会をしよう」との声が上がる。風もなく穏やかな日差しの中、ここでビールを飲んだらさぞかし美味しいことだろう。その後住宅街から車道に出て、龍崖山公園登山口へと向かう。登山口には龍を彫った柱が両脇に立っており、そこから林の中を登っていく。



龍崖山は、地元「龍崖山を愛する会」の方たちによって、登山道のあちらこちらに看板やベンチが設置され、登山道を整備してくれているため歩きやすい。見晴らしベンチや竹筒で作った望遠鏡、額縁も設置されており登山者を楽しませてくれるアイデアがいっぱいである。

山頂近くには、山城に設けられた「堀切」があり、その説明も図で解説されている。山頂へは予定より少し早めの到着。冬支度の「龍子姫の像」が飯能市街を見下ろしている。集合写真を撮るため並んでいると、他の登山者の方が「撮りますよ」と、声をかけてくれ写真撮影。その後、軽めの昼食を摂り下山。山道は落ち葉が積もり、急坂に緊張しつつ転倒しないよう気を付けながら歩を進める。20 分程で八耳堂へ到着。池は氷が張っており冬の寒さを感じる。トイレ休憩をして吾妻峡へと向かう。ドレミファ橋を渡り多峯主山登山道から常盤平分岐を雨乞池へと進み、天覧山山頂へ。展望台で眺望を少しだけ堪能し下山。

中央公園でトイレ休憩をし、忘年会に参加しない数人はここで解散。忘年会会場の「達まる」へは予定より早く到着。山行コースをアレンジした人、忘年会のみ参加の人とお店の前で合流。開店前ではあったが、外は寒いので早めに店内へ案内してもらう。その時になり 1 名がウェアを途中で落としてきたかもと再び天覧山へ向かうというハプニングが発生。

本日最高齢の吉田さんに乾杯の音頭をとって頂き、それぞれが今年 1 年を振り返り、楽しかった山の思い出を語り合いながら和やかなひとときを過ごした。天覧山に戻った 1 名は開宴後 40 分ほどして戻り、酒宴に加わることができた。博多名物もつ鍋を囲み話が弾んだ。宴たけなわの中、高橋さんの挨拶と 1 本締めで本日の忘年山行はお開きとなった。



縞枯山・北横岳

朝井 紀久子

- ・日 程：2026 年 1 月 17 日（土）～ 18 日（日） 1 泊 2 日
- ・場 所：縞枯山（2,403m）、北横岳（2,472m）※北横岳は登頂できず
- ・参加者：松尾渡、田中利昌、塚越和子、行方真由美、宮崎則子、那須朋美（※ 2 日目のみ）、朝井紀久子（SL）、飯塚雅信（CL）
計 8 名
- ・天 候：晴れ。気温 -2℃。微風。
- ・行 程：5 名は電車で茅野駅、9:40 発バスで北八ヶ岳 RW。車は同所 P に停車。皆で集合後に 10:32 RW 乗車し、山頂駅の無料休憩所にて昼食してから出発。
（※那須さんは 2 日目に連絡をとりながら縞枯山荘～天池峠間で合流）
1/17（土） 12：35 山頂駅発 → 13：45 縞枯山 → 14：30 茶白山 → 15：15 大石峠 → 15：30 麦草ヒュッテ着、宿泊
1/18（日） 6：30 朝食、7：30 ヒュッテ発 → 9：10 雨池（コース検討、池渡り、休憩）9：45 → 10：50 雨池峠 → 11：20 坪庭の周回 11：50 → 11：55 RW 山頂駅（休憩所で昼食、RW 乗車）→ 13：50 山麓駅 ※電車組と車組、解散。電車組は 14：55 バス発 → 15：47 茅野駅着。電車で帰路、解散。

・所感報告

天候は快晴で、雪山初級には最適でした。アイゼンは全くの初心者はおらず、装着しづらい方には周囲の協力もあり、良い雰囲気を出発いたしました。しばし広々とした雪原を進む中、縞枯山荘の美しい三角屋根が現れ心躍ります。その後、苔と岩々が雪に隠れた登りで、縞枯山へは標高差 170 m ほどですが、地味に堪えました。山頂は分岐標に小さな記載がありましたが、暫くなだらかな縞枯れ現象を起こしているコマツガなどの針葉樹が続き、その全体が山頂という印象です。縞枯れは帯状に生じ新陳代謝をしているようで、その風情を十分味わえました。続く茶白山では南八ヶ岳の秀峰が勢ぞろいで眺められました。しばらく下ると冬期通行止めとなる R299 が現れ、すぐ前に麦草ヒュッテがあり時間通り到着。便利な位置にあるのが分かります。3 部屋の個室に分かれるも、夕食時刻まで一つの個室に集まり歓談、乾杯。コタツやストーブがあり、暖かく宿泊できました。食事も美味しかったです。



縞枯山荘を通過



縞枯山への登り



縞枯山

2 日目はほぼ定刻に出発。雨池までは標高差 60 m で気持ちの良い樹林帯ですが、雪に隠れた木道は踏み外し易く、意外に緊張感がありました。雨池には予定 10 分過ぎ位で到着。ここでルートを検討。池周りに戻る又は進むか、池の上に行くか。結氷した池も池周りも、池周囲の風通りの為かトレースがありません。皆で協議の結果、出来るだけ外側浅瀬の池上が“氷上でも安全で、できるだけ短距離で、ラッセルも少ない”との合議でルートを決定（S L 朝井の判断としても、前週に同じ北八ヶ岳の白駒池で結氷池上を安全に歩行した経験を踏まえました）。

飯塚 C L を先頭に進みましたが、15cm 程の新雪で徐々に疲労も出てきた為、途中で塚越さんが変わって下さいました。

新雪の池上渡りは、緊張と新鮮な経験でした。渡り切り山道になった所で休憩。暫くして、雨池峠への急登を、案内に従い新道で登ります。アクシデントは特になく進みましたが、雨池峠到着が計画の 1 時間 20 分オーバーでした。この雨池到着～雨池峠間が、今回の山行で予定時間を超過した区間でした。それにより、北横岳は中止と致しました。原因は、計画段階で近年の支部山行計画を土台とし、しかしそれが元々、この区間が標準タイムより短めの計画であった事と、その山行自体、実際は別ルートで実施されたにも関わらず、報告書ではなく計画書を参照してしまった事が、担当としてやってはならない過ちでした。らば標準タイムを確認した上で、更に雪山を加味しての割増し分、休憩時間、池を渡る（又は周る）時間が必要ですが、それらが全て不足しており、その分を計算すると丁度、当日の実施タイム位でした。C L には事前に計画の確認をして頂きましたが、本計画の土台をまとめた S L が最も計画責任を果たせておらず、参加者に変な申し訳なく思います。当日の、その後の行程は、雨池峠を過ぎた地点で、2 日目のみ参加の那須さんと合流し、11:30 坪庭入口に到着。北横岳へは、本日沢山の登山者が入山しており、すれ違いでのタイムロスも更に念頭に置く必要もある事から、北横岳登頂は完全に中止を決定しました。代案で、坪庭を周遊することとして、景色を味わいながら、11:55 RW 山頂駅前で終了。帰りのバス便まで時間がある為、山頂駅と山麓駅の休憩所で飲食をし、解散となりました。今回は、思わぬ時間の読み違いがあり、最後の北横岳へは行けませんでした。縞枯山や、雨池にも行けて良かったと参加者からの声を頂き、感謝と共に自己の経験を深め、学ばせて頂いた山行でした。



坪庭

新入会員ウエルカム山行「長瀨アルプス」

町田 美春

- ・日程 : 2026 年 2 月 11 日（水：建国記念の日）
- ・場所 : 長瀨アルプス 宝登山（497m）
- ・参加者：間仁田隆一、若林優子、坂倉理恵、水野康男、小玉和孝、田中利昌、宮崎則子、小島千代美、立原由子、水野千秋、平本真二郎、平本美恵子、那須朋美、行方真由美、中根洋子、峰真人、湊本由紀、塚越和子、北西典子 ※ CL 稲越洋一、SL 町田美春 （21 名）
- ・天候 : 曇り
- ・行程 : 9：30 野上駅→9：45 万福寺→11：10 分岐→11：35 宝登山 12：25 →13：00 宝登山神社参拝→13：25 長瀨駅 解散（行動時間：約 4 時間）

【山行概要】

前日までの好天とは裏腹に雨予報の当日、秩父鉄道野上駅に 21 名が集めた。寒さが身に染みるところに雨予報も加わり、駅舎内で皆レインウエアに身を包む。新入会員 4 名を迎え入れ、全員で自己紹介後、山行をスタート。ほんの少し雨がばらついているが気にならない程度。国道を横断し民家のある通りを万福寺まで行き、そこから長瀬アルプス登山口へ。数日前に降った雪が山道の脇に残っている。曇天で空気は冷たいが風はなく、歩いていると体が温まり、厚着をしているため暑さすら感じる。途中、衣服調整、飲水の休憩をとる。葉が落ちた樹林帯の中は日差しはないが明るい。雨は既に止んでいる。途中協力金のポストへ各自 100 円を入れ進むと、山道の所々にあった残雪が踏み固められ滑りそうになる。転倒しないよう緊張しながら歩を進める。



いったん林道に出てしばらく歩き、「毒キノコに注意」と書かれた有名な看板の有る分岐を宝登山方面へ。急登の階段は整備されていたが、やはり息が上がる。階段を登り切ったと思いきや最後の階段が山頂へと続く。楽しい仲間たちと途切れなくおしゃべりしながら歩くと思いのほか、あっという間である。

山頂には、新しくできた展望テラスがあり映えスポットになっている。山頂と展望テラスでそれぞれ集合写真を撮り昼休憩へ。山頂からは雪化粧をした武甲山や秩父の山々の幻想的な景色を堪能した。ロウバイはまだ満開ではなかったが黄色の可愛い花を咲かせ、白梅や紅梅、福寿草の花々も私たちの目を楽しませてくれた。



トイレを済ませ、レストハウスの脇から下山を開始する。下山口は階段で整備されていたが、その先は残雪でドロドロ状態。皆滑らないようストックを使用しながら慎重に歩く。

30 分程で宝登山神社へ到着。リーダーから参拝の仕方をご教示頂き、安全登山と共に個人個人の願いを込め参拝した。その後、新入会員の方に感想を述べて頂き長瀬駅で解散した。

新入会員の方たちは緊張しながらも先輩方と山や地元の話で打ち解けていた様子。雨予報であったが、参加者の日頃の行いのおかげで雨にも降られず、親睦を深められた山行であった。



平日山行倶楽部

鉢伏山

橋本 久子

10月23日～24日

山の名は、おおよそその山の山容や由来から名づけられたものが多いが、鉢伏山ほどその名がびったりなのも面白い。山に近づいたころ、仲間の一人が「蕎麦打ちのときの捏ね鉢みたいですね」といったが、けだし同感である。

登りは扉温泉登山口から入ったが難所という場所もなく、陽だまりハイキングといった風で順調に鉢伏山荘に着いた。山行案内に載っていた、青い屋根の洋風な山小屋である。ひときわおしゃれなのは、屋根の上に載せた越屋根だろう。採光や換気のためにつけられた屋根である。これは建築家の斎藤裕氏が1977年に建てたという。

今年の秋は、一気にやって来て山の気温は一段と冷え込み、ダウンジャケット無しでは過ごせない夜となった。小屋の主人が薪ストーブを焚いてくれたが、洋風のダイニングに11名分のビーフシチューが揃う頃には、少し冷めてしまったけれど、とろけるほど煮込んだビーフは心に沁みた。平日とあって他の客は一組ほどだったので、布団と毛布はふんだんにあり何枚も使わせてもらったので寒くはなかった。一晩中トイレの電気もつけておいてくれたのがありがたかった。

二日目は、早朝5時半に出発して山頂に向かった。風もなく気持ちの良い登りである。

そして頂上。少しずつあたりが明るんできて眼前に広がるのは日本アルプスの大パノラマ。北アルプス、中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳そして富士。日本の名だたる山々がこんなに一度に見られるのは、ここよりほかに知らない。遠くの山を見る時、基準になるのは先の尖った槍ヶ岳である。そこから左に穂高連峰、右に常念、大天井、燕、針ノ木……と山の名が飛び込んでくる。その山々をこの小さな足が踏んできたことが、はるか昔のこのように思われた。この360度の光景が鉢伏山の宝であろう。山頂直下には、私の好きな歌人若山牧水とその妻若山喜志子の歌碑があったのが見逃してしまった。とても心残りである。特に喜志子はここ塩尻の生まれで歌集には崖の湯温泉で詠んだ歌も多数ある。レンゲツツジの歌もあり私もレンゲツツジがこの山を覆うころまた来てみたいと強く思った。

下山路は牛伏寺コースをとったが、登りより急降下な場所もあり慎重に下りた。途中「フランス式階段工経由」の看板があり、この流路が下りのメインだと思った。土砂災害の多いこの地域では、治山・治水のために政府がフランスから取り入れた工事様式である。牛伏川の流れの中に階段を造って流れを緩やかにしたのである。ただし、これは山を下り終わるころに分かったことである。

今回の山は全員初めてで、ピンクリボンを頼りにたどるところもあったが、樹木の種類も豊富でとても変化に富んだ素晴らしい山だった。初めて登る山は何があるかわからない。しっかりとした身支度と登山靴、そしてなによりも体力。平日山行だからといって侮るなかれである。

(参加者：萩原、宮崎則子、小島、立原、橋本、塚越、吉田寛治、野口、中島、清登、高橋)



鉢伏山頂



鉢伏山荘

箱根駒ヶ岳～神山

坂倉 理恵

11月20日

箱根の山は、金時山くらいしか行ったことがなく、なかなか足が向かない山域だったため、お知らせを頂戴したらすぐに申込みをさせて頂きました。それでなくても最近の平日山行倶楽部の盛況ぶりと言ったら！今回も19名の枠がすぐに満席となり、キャンセル待ちの方までいたそうです。

JR八王子駅で待ち合わせ、チャーターしたバスで一路箱根へ。平日にも関わらずさすが紅葉シーズン、渋滞で予定より30分程遅れてのスタートとなりました。

まずはロープウェイで箱根駒ヶ岳へ。裾野まで見える大きな富士山と、くすんだ緑色の丘の上に鎮座する箱根元宮の朱塗りの社殿。360度見渡せる駒ヶ岳山頂は絶景でした。山行中、大きく富士山が見えたのはここが最後となりました。

次に向かう神山は、箱根山域の最高峰だそうです。一度大きく下り、神山への急な登り返し。随所に枝が登山道までせり出していて、「頭、注意ね～」と声のリレーです。かなり遠くに見えていた神山は、意外に近く感じ山頂に到着。皆さんとの会話や清々しい気候、何より私には丁度いいペース配分のおかげで、苦手な登りも楽しんで歩くことができました。

下山は、登りでロープウェイを使い楽をした分、歩いて降りる修行道。なかなかのハイペースでどんどん下って行きます。皆さん、なんて足が丈夫なのだろう。参加するたびに尊敬と憧憬の念を抱かずにはいられません。身近に目標とできる方々がいてくださること。一緒に山に登れること。自分は何と幸せな環境にいるのだろうか。そんなことを思っているうちに、ずっと遠く眼下にあった芦ノ湖が、すぐ真横に見えるようになりました。無事に山行を終え、見上げた箱根駒ヶ岳は、紅葉と傾きかけた陽の光でオレンジ色にキラキラと染まっていました。

(参加者:小島、立原、橋本、宮崎則子、塚越、萩原、東、行方、坂倉、轟、水野、渡辺徹也、中島、稲越、吉田寛治、米山、出口、清登、高橋 19名)



秀麗・富士山



神山山頂

日和田山～物見山～平沢富士山

中根 洋子

1月15日

初めて平日山行倶楽部に参加させていただきました。

日和田山から物見山までは覚えがありましたが、その先の平沢富士山は初めてのルート。私にはなかなか歩きごたえのある下りもあり、途中で地形図を見たところ、「ここはどこ？私の行くところはどっち？」といった状態になってしまいました。これではいけないと思い、改めて周囲をしっかりと見渡しながらか歩かことができました。

初参加なのに距離のあるコースで、ついていけるのか不安もありましたが、程よいペースなので大変楽しく歩かせていただきました。

暑すぎず寒すぎず、天候に恵まれ、金刀比羅神社と高麗神社にも参拝でき、最後は素敵なお店で新年会。おいしい食事と皆さんの興味深いお話をうかがいました。

緊張感も好奇心も、そしてお腹も満たされた山行でした。ありがとうございました。

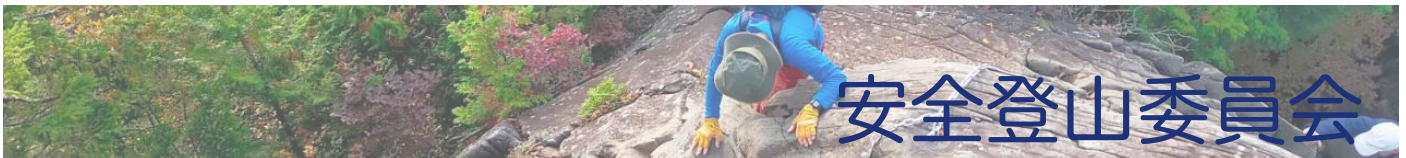
(参加者：小島、立原、橋本、宮崎、塚越、水野、中根、渡辺徹也、中島、稲越、吉田寛治、米山、足立原、大室、清登、野口、高橋)



平沢富士山頂



急下降



講演会「埼玉県警察山岳救助隊の話」

田中 利昌

日時・場所：2026 年 1 月 24 日（土）14：00～16：10 於・埼玉会館 3C 会議室

講師：埼玉県警察山岳救助隊 高島 望氏（補助：小宮 進氏）

ココヘリ 八木澤美好氏（AUTHENTIC JAPAN ㈱専務）

山崎 康司氏（ココヘリオペレーター、埼玉県警OB、日本山岳ガイド協会山岳ガイド、JAC 埼玉支部会員）

参加者数：支部会員 24 名、東京支部会員 1 名、信濃支部会員 1 名、一般 10 名 合計 36 名

第一部. 埼玉県警察山岳救助隊の話

1. 山岳救助隊の体制

埼玉県警察山岳救助隊は、32 名（秩父 20 名、小鹿野 9 名、本部 3 名）隊員は、通常は交番勤務。山岳遭難防止対策として、登山届提出の啓発活動、登山道整備を行う。

2. 情報発信

X (SNS) にて情報発信。山岳救助隊ニュース、両神山のハザードマップ等。

3. 登山地図アプリとの連携

- ・コンパス、ヤマレコ、ヤママップとの連携
- ・ココヘリとの連携（発信機からの情報をもとに遭難者を検索）

4. 遭難者の状況

- ・令和 2 年から増加して令和 5 年 (94 件) がピーク、令和 6 年は 73 件、令和 7 年は 77 件。因みに長野県警は 350 件。登山届提出率は、77 件の内 25 件で、32%の構成比率。提出しなかった理由として、必要ないと思った (33.6%)、計画を立てなかった (12.2%)、提出方法を知らなかった等。
- ・棒ノ嶺、両神山で全体の約 20%
- ・埼玉県は、5 月・10 月・11 月にピークがある。温暖化の影響で、晩秋までアルプスに登れるようになり秋に増加傾向。
- ・両神山の上落合登山道閉鎖を令和 5 年に解除したため遭難件数は増加している。
- ・年代別では、65 歳～74 歳が多く、45 歳～54 歳も増加傾向。(子育て一段落か)

20 歳代の若い世代は装備不十分が原因。複数で無知なため集団で遭難。

- ・登山歴 1 年未満の遭難者が増加傾向。令和 7 年は全体の 30%。
- ・態様別（原因別）では、道迷いが 12%（減っている）、山でのマネジメントが低下している。滑落（顕在態様 24.3%、潜在態様 15.2%）、道迷い（顕在態様 9.1%、潜在態様 19.3%）

5. ヤマップとココヘリで行方不明者を早期発見した事例

- ・両神山（八丁コース）での遭難者捜索：「ヤマップ」で位置情報、「ココヘリ」の検索機器を活用して、捜索開始から 2 時間で行方不明者を発見。
- ・西谷山での救助例：装備品不足、北斜面は雪があったが軽装で行動不能。

6. 野生動物（熊）による被害について

- ・小鹿野町の天理岳から両神山の登山中に熊と遭遇し避難する際に転倒事故。
- ・目撃情報は令和 6 年で 108 件、令和 7 年で 163 件。
- ・令和 6 年 5 月に秋田県警署員が 2 名死亡。
- ・熊の眼力（視力）は人間と同等と言われている。
- ・熊避けスプレー（カブサイシン）、鈴が有効である。
- ・熊の痕跡（糞）が分解されずに残っていることは数日以内に熊がいた証拠。その他の痕跡として、熊棚、土まんじゅう等。
- ・冬眠は冬にエサが無い場合省エネのために行う。エサがあれば冬眠しない。また、常に眠っているわけではなく移動している。
- ・秋田大学で熊に対する防御姿勢の有効性を発表している。熊被害に遭った人 70 人中の 7 名が防御姿勢を取り重傷者はゼロであった。防御姿勢を取っても継続して襲ってくるようなら戦うしかない。
- ・熊に襲われた人がいたため車のクラクションを鳴らしたがダメで、熊スプレーで逃げた。スプレー、ストック（長い物に恐れる習性）、爆竹、獣除け線香等が有効。
- ・警察官の護身用の銃ではダメ。一発で致命傷にならないと大変なことになる。



ココヘリの説明

第二部. ココヘリの説明

1. ココヘリの紹介

- ・公的機関では、埼玉県警が第 1 号で協定締結した。
- ・目視の捜索から電波での捜索に移行する。
- ・目的は捜索の長期化、捜索費用を軽減すること。

2. ココヘリのサービス

- ・公的機関と連携し、年間 550 万円までの役務提供。

3. 仕組みと機器の特性

- ・ノーマル受信機は 1 km、ブースターアンテナで 10 km、ドローン取り付けアンテナで 16 km の距離を受信可能。

4. 通報受電の流れ

- ・本人 → 110 番 / 119 番への通報（携帯が通じる場合） → ココヘリコールセンター → ココヘリ担当者が公的機関と連携（ID 他情報共有）
- ・ココヘリの強みは GPS（GPS 付新型発信機） + 直接通信

5. その他

- ・携帯電話を紛失してしまうと緊急連絡先が分からなくなる場合があるので、メモしておくことを薦める。
- ・ココヘリのヘリオペレーターは全国に 5 名（埼玉 1 名）。

○質疑応答

質問：ココヘリとの協定とはどんな内容か？

回答：情報の共有に加えて、機器（アンテナなど）の貸与も受けている。



埼玉県警察山岳救助隊 高島 望 氏

ボランティア委員会

清掃登山 筑波山

若林 優子

日時：2025 年 11 月 1 日実施

目的：登山道の清掃

実施場所：筑波山（茨城県） 天候：晴れ

参加：支部員：6 名（稲越、松尾、根本、吉羽、芦沢、若林）

コース：9：00 つつじヶ丘登山口→9：30 弁慶茶屋跡→10：00 屏風岩→10：10～10：30 女体山→11：00

昼食 11：30 → 11：50 男体山→12：10 筑波山山頂駅→13：35 宮脇駅→13：40 筑波山神社

行動時間 約 4 時間 50 分 距離 約 4.9km 高低差 登り 457m 下り 726 m

【活動成果】

今回の秋の清掃登山は茨城県筑波山で実施した。事前に茨城支部 支部長 浅野様にご挨拶の連絡をとったところ快諾していただいた。この場で御礼申し上げます。

前日の天気が雨であり、また数日前までの天気予報では当日も雨の予報であったため、想像よりも登山者が少ないようだった。混雑時は歩行時間 20 分くらいのところでも、60～80 分かかることもあるそうだ。



登山道では、急登のところではあまりゴミが落ちていなかったが、傾斜が緩んで休憩しやすいところ、ベンチの周囲などは、タバコやお菓子の袋などが落ちていた。昔に捨てられたであろう缶や割れた瓶なども多く見受けられた。山頂のケーブルカー駅周辺では植え込みや茂みの中にゴミが隠されているところもあった。落とし物のタオルなどは判断に迷うが、落とした人が取りに来ない限り結局最後はゴミになってしまう。自分自身も気をつけるべき点である。

筑波山神社でゴミの量を確認したところ、全員ゴミ袋いっぱいになりゴミを拾って頂いた。45L 袋の 2/3 程度の量であった。最後に雨上がりで足場の悪い中、参加していただいた 5 名の方に感謝申し上げます。



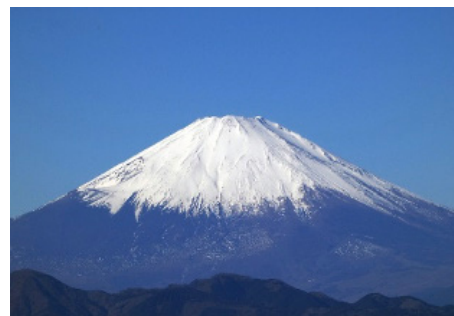
新年山行 湘南平・高麗山

若林 優子

- ・日程：2026年1月10日(土)
- ・天候：晴れ
- ・山域：湘南平・高麗山(神奈川県大磯町)
- ・参加者：清登、高橋、稲越、橋本、奥田、鴨志田、米山、林、若林、立原、松尾、小玉、磯崎、行方、中根、芹沢(会員番号順)
- ・コース
大磯駅 10:00 → 登山口 10:20 → 湘南平 10:55 → 浅間(センゲン)山 11:23 → 八俣山 11:55 → 高麗山 12:04 → 高來(タカク)神社 12:25 → 懇親会会場(「平塚漁港直送鮮魚 手打ちそば 磯っぺ」平塚市) 12:58
- 行動時間：約3時間 距離：約5.1km 登り：約253m 下り：約268m

概要

今回のボランティア委員会の山行は「地産地消・地域振興」をテーマに神奈川県の大磯にある湘南平～高麗山にて実施した。公共事業というよりも懇親の意味合いが若干強い企画であったが、多くの方に参加いただけた。

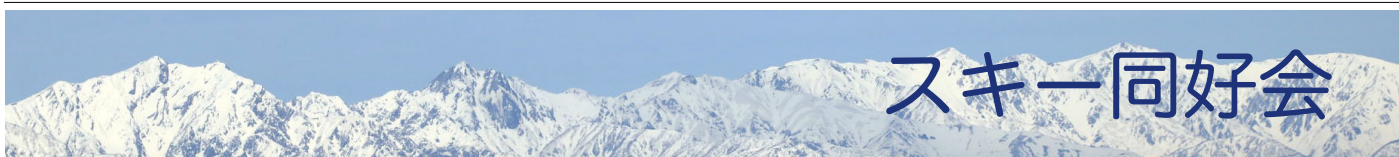


当日は強風だったものの、天気は快晴、春の様な陽気であり、最高の登山日和であった。湘南平の展望台からは相模湾や大島、富士山、箱根、丹沢の山並みを見ることができた。

山域が海に近いこともあり、至る所から海を眺めることができ、登山道も良く整備されていて大変気持ちの良いルートであった。また、短いながらも縦走気分が味わえるところも良い。高麗山の麓にある高來神社は埼玉県日高市にある高麗神社と縁があるといわれる神社である。ここでそれぞれ新年のお参りをを行った。

新年会では地元のにしらすを使用した料理や新鮮なお刺身、美味しい地酒を堪能した。たまには息抜きできるゆるい山行も良いと思うので、また機会があれば企画していきたい。





令和7年度(2025)第7回日帰りスキー会【報告】

古川史典

- 1, 開催日: 令和8年(2026)2月1日(日)
- 2, 場 所: ホワイトワールド尾瀬岩鞍スキー場(群馬県片品村)旧尾瀬岩鞍スキー場
- 3, 参加者: 吉田寛治、渡邊嘉也、古川史典、根本忠一、朝井紀久子、吉本千春 計6名
- 4, 活 動: 8:00 関越高速赤城高原SA 集合 10:00 滑走準備後自由滑走 12:00 懇親・昼食(うめでん) 14:00 自由滑走
16:00 自由滑走終了「望郷の湯・ファミレス」に寄り解散

5, 【全体コメント】

今年度は参加者6人で開催しました。今回は①雪質よし②天気よし③混雑無し、と昨年とは大違いの尾瀬岩鞍でした。又、昼食場所も混雑を予想して会員の方がテーブルを予約してくれていて、懇親と食事もスムーズに行われました。休日の短い時間でしたが、個々の技量に応じたスキーを楽しめたのではないかと思います。帰路は、温泉とファミレスに寄り充実した日帰りスキー会でした。そんなスキー会でしたが来年度も開催しますので、JAC 埼玉支部会員の方一緒に滑りましょう。会員登録お待ちしております。f8008pk@rock.odn.ne.jp 古川まで。

【参加者コメント】

根本:「尾瀬岩鞍日帰りスキーに参加して」

今回初めて埼玉支部の日帰りスキーに参加した。今回の参加者は6名、40代から90代まで一人ずつである。90代の吉田さんが40代の吉本さんにスキーを教える姿は正直、圧巻だった。吉本さんは恐縮していたが、吉田さんは教えることをいとわない。山の仲間のつながりがまぎれもなくあり、世に言う世代の価値観の差など無い。若い頃は基礎スキーに夢中だったけれど、才能なく見切りをつけ、毎年3日間だけ北海道の富良野に行っていた。久しぶりの「内地」でのスキーである。しかも普段はひとりで滑っていたので、仲間と行くスキーの楽しさを懐かしいくらい思い出させてもらった。

吉本:「明日から頑張ろうと思いました」

JAC 埼玉支部スキー同好会に初参加致しました。先輩が私に一日中、優しくスキーを教えてください、その精神力に本当に感服しました。また、誰からともなく私のレンタルスキーを運ぶのを助けて頂き、さすが日本山岳会の先輩達と感謝いたしました。みんなで食事や温泉に入るなど良い思い出ができました。移動中などメンバーの皆様から、たくさんの人生の名言を頂き、明日から頑張ろうと励まされました。ありがとうございました。



笑顔で全員集合



雪質OK 準備万端



予約席で懇親・昼食



彩の山研究会だより

■ 本年の干支から

宮崎 稔



宮崎 稔 氏撮影

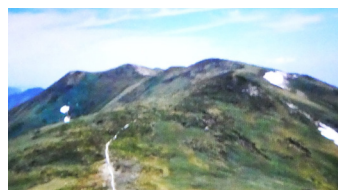
2026(令和8)年は丙午(ひのえうま)

写真の藁馬は、2002 年午年の切手になった新潟県新井市の民芸品でスゲ細工です。親戚の実家の方の手になるものです。切手の馬もその人の作品と聞いています。夏山相談室で妙高山の説明のおじさんに「それは俺の友達だ」と言われたことがあります。切手になる数年前に母親が本家からもらった物です。

■ 西暦標高年の山は仙ノ倉山(せんのくらやま) 2,026m

小原 茂延

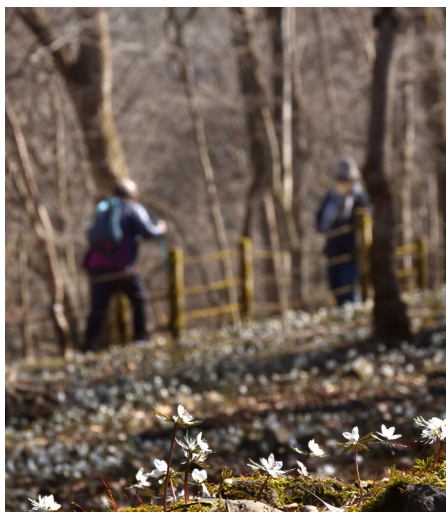
三国山脈、谷川連峰の最高峰で日本 200 名山、二等三角点が設置されている。主峰谷川岳の西方に位置する。私が平標山に登った時はガスって展望に恵まれなかった。藤島敏男は木暮理太郎に同行した際にこの風格のある山を教えてもらったと書いているが、その藤島敏男と森喬が谷川連峰の初縦走記録を報告した。



仙ノ倉山

■ 秩父の自然

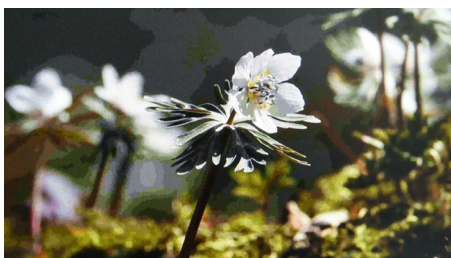
宮崎 稔



セツブンソウ(節分草)

両神山白井差登山口への山麓に節分草の群落があります。両神山はチャートが多いですが、ここは石灰岩です。近年は旧両神村を併合した小鹿野町で節分草園地として管理をしています。

3月になると、園地脇にあるマンサクも花期が重なり、野草ファンで賑わいます。変種を見つけた時は思わずニコリです。



写真左：早春の散歩道

写真右：節分草

撮影：宮崎 稔

■ 思い出の山々 (1)

小原 茂延

- ◇御前山 武蔵五日市よりバスで小沢へ、湯久保尾根を登り、小河内ダムに下った。秋の好日で学友と大勢で登ったが、山の素晴らしさに開眼した。
- ◇乾徳山～黒金山 塩山駅に下りたが、真っ暗な早朝、バスで徳和へ、道標を見落としヤブ漕ぎを強いられた。頂上直下の鎖場は初挑戦だった。黒金山から大ダオを下ったが溪流沿いの道が良かった。
- ◇小金沢連嶺(初鹿野～大蔵高丸～小金沢山～大菩薩嶺) 初鹿野駅(現 甲斐大和駅)を降りたのは午前2時頃で真夜中、満天の星の下、笹子側に戻り日川沿いに大蔵沢出合いを目指す。先行者から大蔵沢は荒れているとのアドバイスを受け、湯の沢峠付近から大蔵高丸に登る。これから長途の尾根歩き、黒岳、小金沢山、大菩薩峠に辿りついたが大菩薩嶺は見上げる高さであった。山頂に着いたときには同行のY君共々バテていたが、それから小菅までの長かった事、終バスに間に合ったのは奇跡!

◇南アルプス北部縦走(竹宇神社～黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳～仙丈岳～北岳～西山)

学友3人で日本三大急登の黒戸尾根を登る。夜行疲れで五合目小屋でダウン、泊まる。翌日は絶好の晴天に恵まれ、白砂青松の山頂から展望を満喫した。仙丈・北岳共に雨中の頂きであった。水の豊富だった両俣小屋が懐かしい。

◇茅ヶ岳～金ヶ岳

仙台から東京の実家に泊まり、翌元旦の「特急あずさ」で葦崎へ。タクシーで登山口の深田記念碑「百の頂に百の喜びあり」を見て登りだす。女岩辺りで1,2のパーティとあったのみ、深田久弥終焉の碑はまだ木標だった。山頂の日だまりから展望を愉しみ、金ヶ岳へ凍り付いた斜面を注意深く下山した時、丁度迎えのタクシーが方向転換するところであった。

■岳書紹介

□『巨匠が描く日本の名山』

この画集は、1997年11月に長野県松本市の(株)郷土出版社から発行されたもので、発売前に山雑誌に広告が出たのだが、全6巻、各巻定価が18,000円ではとても手が出なかった。それから数年して浦和のプラザイースト併設の図書館にあるのを知って、何度通って鑑賞したものか、ある時試みに「日本の古本屋」で検索したところ大阪の「天牛書店」で全巻が一巻の値段だったので購入した。編集委員に足立朗、斎藤郁夫らが当たり、山の解説を串田孫一・高田宏・近藤信行らが書いている。

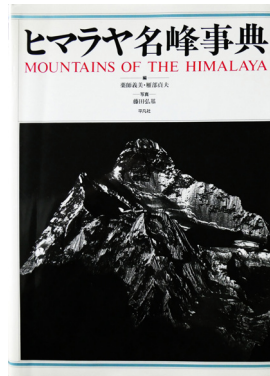


小原 茂延

□『ヒマラヤ名峰事典』

薬師義美・雁部貞夫編、写真を藤田弘基からなるヒマラヤ・カラコルムを網羅した平凡社発行1996年9月発行の書。

表紙はカンチェンジュンガの西方に位置するジャヌー(7710m)であるが、記載の1例として紹介すると、「…避暑地ダージリンから遠望できることから、「怪峰」「スフィンクス」「眠れる獅子」などといわれ、…」の概要から「探検・登山史」の詳細が紹介されている。ヒマラヤのパイオニアであるイギリスの植物学者フーカーが1848年に初めて探った。また、1899年にフレッシュフィールドのカンチェンジュンガ一周に同行したイタリアのV.セラはジャヌーの素晴らしい写真を撮った。初登頂はフランス隊で偵察から5年、1962年4月27日に、トレイ隊長のもと、R.バラゴ、R.デメゾンらが成功し、翌28日に再度隊長らが登頂した。



65年から登山禁止となり、72年再開され、74年に成城大学隊(川瀬幹夫隊長)が第2登、76年には小西政継隊長の山学同志会隊が北壁をめざし、第3登となった。

■マナスル初登頂から70年



横有恒隊長

日本がヒマラヤ8,000m峰の一峰であるマナスルに初登頂したのは、1956(昭和31)年5月9日であった。それまで第1次、2次登山隊が遠征したがいずれも不首尾に終わっていた。後がなくなったJACは当時60歳を越えていた会長横有恒を遠征隊長に推挙して、背水の陣を敷いた。

かくして、5月9日12時30分 今西寿雄隊員、ギャルツェン・ノルブ(サーダー)が山頂を踏み、敗戦から立ち直る国民に勇気と自信をもたらした。前後するが、ネパール政府から登山許可を受けるべく奔走したのが今西錦司の命を受けた西堀榮三郎である。その関係から許可は京都大学日本学術探検隊準備委員会代表宛であったが、今西錦司の英断で国家的見地から日本山岳会に移譲したものである。



今西 寿雄



ギャルツェン・ノルブ

当時のネパールは奥山の高山に付いて未だ調査と山名が明確でなかったようで、許可証の山名はヒマルチュリとなっていた。その後、マナスルとして正式に日本山岳会へ許可証が与えられた。

因みにマナスルの発見は1950年、英国のH・W・ティルマによる。この処女峰に目を付けた今西錦司の慧眼も鋭い。

「彩の山研究会」連絡先の変更
お問い合わせ先 kaikoma2965@jcom.zaq.ne.jp 小原茂延

ペンリレー 第10回

小玉 和孝

「古川さんとの出会い」

私が埼玉支部に入会したのは、2021年5月です。

コロナ禍以前はマラソンをしており、2020年3月以降のマラソン大会がすべて中止になったため、2020年夏シーズンから山登り(百名山)を始めました。その頃は登山口まで車で行き、ピストンで帰って来る登山スタイルでした。

2021年3月にやま塾のパンフレットを勤務地の近くの植村直己冒険館で見つけ埼玉支部に連絡しました。その時すでにやま塾は定員オーバーでしたが、大山支部長、前・林事務局長とお会いして、埼玉支部に入部することを決めました。1年目はほとんど山行にも参加せず、参加したのは新入会員歓迎山行くらいでした。



私に転機がおとずれたのは、埼玉支部会員の古川史典氏に古道調査・十字峠越えに誘われ同行してからです。初めての山小屋泊(十字小屋)、山の歩き方、装備等、色々と教えて頂きました。その後、2022年に山行委員として、私が甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳山行でサブリーダーを、同年に燕岳山行でリーダーを務める際、下見山行、本山行ともご同行、ご指導頂きました。

2023年以降も個人山行で幌尻岳、トムラウシ山、白馬岳、大雪山縦走、苗場山等もご一緒させて頂きました。特に昨年7月上旬の大雪山縦走に関

しては、大変勉強になりました。4人での山行でしたが、事前打ち合わせを3回実施しました。当該ルートは、以前に死亡事故が発生したこともあり特に慎重に打ち合わせを行いました。天候悪化時のエスケープルート、予備日の設定、装備、食料、荷物の分担等、今までの山行では、こんなに多くの打合せは行いませんでした。また、縦走時は避難小屋泊ですので、6月に三頭山の避難小屋で宿泊訓練も実施しました。

大雪山縦走は、前泊・後泊を含め4泊5日の行程でした。天候も良く予備日も使用せず素晴らしい山行となりました。見渡す限りのチングルマやコマクサの大群生は今でも目に焼き付いております。また、7月の上旬で雪がかなり残っておりチェーンスパイクを着けた雪溪の歩き方も学ぶことができました。

一人ではこのような経験は出来なかったもので、日本山岳会埼玉支部に入部して「本当に良かった」と思いました。最近、積極的に支部山行に参加して楽しんでおります。

最初にきっかけ築いて頂いた古川さんに感謝です。

今後も、百名山にこだわらず皆さんと楽しく安全に山登りを続けていきたいと思ひます。

*次回は吉田寛治さんです。



右から2番目：筆者 手前：古川氏



会務報告・新入会員自己紹介

会務報告

埼玉支部会員 在籍者数及び異動

2026 年 2 月 20 日現在

会員	125 名	準会員	21 名	計	146 名
----	-------	-----	------	---	-------

入会

7924 東京支部より異動	加藤 節子 (東松山市)	12 月
17541	瀧本 由紀 (蕨市)	2 月
17606	間仁田 隆一 (川口市)	11 月
A0685	峰 真人 (久喜市)	2 月

退会

17198	齋藤 哲也	10 月
12738	刈谷 靖彦	11 月
16202	轟 涼	12 月
17073	小林 弘美	2 月

敬称略

新入会員自己紹介

《瀧本 由紀 会員番号 17541》

蕨市在住の瀧本と申します。初心者で緊張気味ですが、安全第一で経験を積みたいと思います。皆さまと一緒できるのを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

《間仁田 隆一 会員番号 17606》

はじめまして、川口市在住の間仁田(まにた)と申します。友人に連れられて山登りを始めて約 4 年になります。関東近郊の簡単な山ばかりではなく、色々な山にも挑戦したい思いがあり山行委員会にも入会させていただきました。これから山の技術や経験を積み皆様と一緒で活動させて頂ければ幸いに存じます。よろしくお願いいたします。

《峰 真人 会員番号 A0685》

この度、入会させていただきました峰真人(みねまこと)と申します。昨年、やま塾 7 期生として学ばせていただきました。山登りを始めてから 1 年ほどの超初心者です。もともとアウトドアが好きで、キャンプやいろいろなアクティビティを楽しんできました。自然の中にいる時間がとても好きです。最近はずっかり山に魅了され、さまざまな景色を見たいと思うようになり、現在は雪山にも挑戦中です。まだまだ初心者ですが、やま塾で学んだことを実践し、命を守りながら無理せず安全第一で楽しんでいきたいと思っています。

いろいろ教えていただけたら嬉しいです。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

インフォメーション

【2026年度埼玉支部通常総会の開催について（お知らせ）と懇親会のご案内】

下記のとおり2026年度通常総会を開催致します。また終了後、懇親会を開催しますのでご参加ください。

● 2026年度埼玉支部通常総会

1. 期日 2026年4月11日(土) 14:00～15:30 (13:40より受付開始)
2. 場所 浦和「埼玉会館」3C会議室 さいたま市浦和区高砂3-1-4 TEL 048-829-2471 (代)

● 懇親会のご案内

1. 時間 総会同日 16:30～18:30
2. 場所 伊勢丹浦和店 7F クローバルルーム さいたま市浦和区高砂1-15-1 TEL 048-834-1111(代)
3. 会費 5,000円



①タイトルの背景に使用する写真を募集しています。縦横比 1:8 の画像もしくは同サイズに切り抜き可能な画像で jpeg オリジナルを添付してお送りください。(不透明度を変更などの加工をすることがあります。)

②支部報の原稿の隙間など、ちょっとした空間にイラストを描いて頂ける方を募集しています。

ご協力頂ける方は、ご連絡をお待ちしております。自薦他薦は問いません。

※①、②は支部報担当まで 坂倉 sakakura_rie@ymail.ne.jp 磯崎 isokana1004@icloud.com

編集後記

高橋さんのコラム「日本山岳会のトリセツ」をレイアウトしている時にふと思い出したことがあります。浦和パルコの下りエレベーターの中、平川さんが仰いました、「お祭りは見ているよりやる方が楽しいんです」。記憶は不確かですが数年前、私がやま塾を卒業した直後の4回目の机上の帰り道か、初めてやま塾のスタッフとして参加した机上講習の帰り道だったと思います。

今回、イラスト(切り絵)を提供して下さった渡辺徹也さんの作品の中にお祭りにつどう多国籍の人々の楽しそうな姿があったのは偶然とは思いませんでした。

新たな時節が楽しいお祭りになるよう願っています。

磯崎 佳奈

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第47号 2026年3月15日発行
発行者：公益社団法人日本山岳会埼玉支部 支部長 大山光一
事務局：〒355-0024 埼玉県東松山市六軒町3-9 大山光一方
電話：090-8804-2589 Email:stm@jac.or.jp
埼玉支部ホームページ：https://jac.or.jp/saitama/